

長野県革新懇ニュース

2019 年 4 月号
発行日 4 月 10 日
会 費 2,000 円
購読料 3,000 円 (送料込)
振 替 0510-3-15971

239

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 大日方聡夫さんインタビュー
- 2 面 1 面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3 面 浅川ダム住民訴訟の結果、大北森林組合住民訴訟
読者の声 講演会&総会案内
- 4 面 焚火は消えた 窪島誠一郎さん
映画評論『Workers』内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

検 索



1940 年松本市生まれ。5 歳より鬼無里で生活。1968 年日本大学に就職、
1992 年～ 2006 年日本大学理工学部教授。現在、原発ゼロ・自然エネ
ルギーへの転換を求める長野県連絡会世話人、学校法人 奥野木学園理
事、長野医療生活協同組合鬼無里支部顧問

エネルギーと食料を賄える

地域社会の実現をめざす

お び な た と し お さん
大日方 聡夫

(N P O 法人まめってえ鬼無里 理事)

鬼無里の魅力 掘りおこす

Q 「N P O 法人まめってえ鬼無里」とのかかわりをお聞かせください。

私が地元に戻ってきたのは 2006 年春、鬼無里村が長野市と合併した翌年でした。50 年間も留守にしていたので地元で謝罪を、と思って地区の役をできるだけ引き受けていました。そんな折、2010 年の正月の夜にどこかかと何人かが突然来て、「N P O を作ることにしたい」というので、理事長になつて欲しい」というのです。事情を聞いて次のことが分かりました。水俣で活用された地元学に倣って、鬼無里の財産を掘り起こして地域振興を図ろうと鬼無里イヤーのためにいろんな活

動をしてきたということです。

長野市に合併した旧町村を 1 年ごとにアピールする企画があり、2009 年度が鬼無里イヤーだったんです。それがいいよ数ヶ月で終わるといふ時に皆で集まって、いろいろやったのにこのまま終わってしまうといいのかということになり、N P O を作って取り組みを継続することにしました。その責任者として「気軽に引き受ける」私が標的になったらしいのです。これが「N P O 法人まめってえ鬼無里」との出会いでした。鬼無里のいいところを皆で掘りおこしてそれをネタに地域を活性化すること、高齢化率が高いので若い人たちに鬼無里のいいところを伝えて継承してつもらうこと、などが N P O 設立の目的でした。

持続可能な 中山間地をめざす

現在取り組んでいるいろんな行事や企画がホームページに出ていますので、ご覧ください。例えば里山を守るにはどうしたらいいか、耕作放棄地や遊休地、空き家が増えているがその対策をどうするか、子どもの数が減って若い人もいないけれどもどうするか、更には文化的に最果ての地、鬼無里というイメージを払拭するために都市部の人たちとの交流を深めるにはどうしたらいいか、そんなことをいろいろ掲げています。

鬼無里イヤーの関係で、青木健太郎さんという人が鬼無里を訪れました。この方は、信州大学の農学部で学び、オーストラリアのウィーン農科

大学で学位を取って国際的な地域おこしの仕事をしている人です。鬼無里で地元の活性化をめざす N P O が生まれ、たことを話したら、村おこしをやるのだったら例えばオー

ストリアのある村を一つのモデルにしたかどうかというアドバイスをいただきました。その関係で、鬼無里から何人かその村を視察に行ってきた。また、青木さんの知り合いに山形と志樹さんという方がいて、彼も同様の取り組みに関心があり、J S T (日本科学技術振興機構)の R I S T E X (社会技術開発センター)が地球温暖化を防ぐための地域的なテーマを募集しているということを紹介してくれました。そこで 3 年間で直接経費 900 万円、間接経費を含めると 1200 万円ぐらいかかる企画で応募したら、運よく認可されました。

テーマは何かというと、C O 2 を削減しながら持続可能な中山間地域、鬼無里を構築するシナリオを作ることでした。その取り組みを 3 年間続けました。その後、私は理事長を降りしましたが、そのシナリオがまめってえ鬼無里が現在取り組む活動の大きな柱の一つになっています。

今力を入れていることは、自然エネルギーを活用して化石燃料はできるだけ使わないような鬼無里にしたいということです。例えば、自然エネルギー・信州パートナーズの太陽光発電施設で私たち N P O が管理する、まめってえ鬼無里発電所(42・57 誌)の最初の設置見積は 3000 万円と言われました。そもそも豪雪地帯に太陽光発電とはとんでもないということから金融機

関には無視されました。そこで、豪雪地帯でも発電可能であることを示すために、降雪が自動滑落するパネルの角度など様々な工夫をし、さらに設置工事も N P O 会員の専門技術を活かすなどして、結局 1300 万円で設置することができました。F I T の価格は 36 円/1 時間ですが、おひさまファンドへの資金返却は可能だと見えています。

薪作りも事業の一つです。時給は最低賃金の 800 円程度は支払っています。先日、実績を見せてもらったら、薪材を倒して運ぶとか、それを割るとか、乾燥した薪を届けるとか、そういう作業が年間で 2000 時間ぐらい必要です。それを今、女性 2 人と男性 3 人がやっています。賃金の総額で 160 万円程度ですが、それが灯油だったらそのお金は鬼無里から外に流出してしまします。ですから、決して十分ではありませんが薪を作ってもらった賃金は鬼無里で循環するわけです。

2000 時間ぐらいじゃ食えないという面はありますが、そういう枠を少しずつ広げていけば一つの大きな地域起こしになる、と思っています。

内外の評価が高まる
鬼無里の取り組み

Q N P O の評価や地域の変化はどのようなものですか？

スタート時は正会員が 40 人、賛助会員が 100 人前後でしたが、今は正会員が 36 人、賛助会員が 160 人程度です。正会員は鬼無里在住者が殆どで賛助会員は外の人が

中心です。

ボランティア感覚みたいなところがあつて、いろんな行事や事業をやるときに会員は知恵も力も出し合います。N P O がいろいろな取り組みをしているものから、鬼無里へ行けば何かいいことがやっているみたいだということが評判になっていっています。

去年もドイツから 3 人來ました。自然エネルギーの取り組みが見られるところはないか問い合わせがきたら鬼無里を紹介するパターンかもしれません。この夏、日本で行われる G 20 の環境問題に関する専門部会が軽井沢であり、そのエクスカージョンとして 3 コースが予定されていて、そのうちの二つが鬼無里に立寄るようです。そんなに有名になつていいのかという気もしますが、非常にありがたい「風評被害」です。それにかかわって地方行政がもうちょっと鬼無里に直接配慮して頂きたいことや他の地域と連携してやって行けるような組織づくりの支援をお願いしたい面もあります。例えば長野市が 100% 自然エネルギーで自給自足する方向に踏み出してもらえるとうれしいという気はしています。

N P O の活動に対する村人の反応ですが、初めは斜に構えてどんなことをやるか見ているっていう感じでしたが、最近はずいぶん理解が深まってきたように思います。実は数ヶ月前に N P O の活動をさらに発展させるためには村の人たちの協力が必要だということで、N P O の新に関する説明会を企画したんです。そうしたら 50 人も集まってく

【2 面に続く】